

# 令和5年度病虫害発生予察特殊報第1号

令和5年(2023年)9月13日  
山口県病虫害防除所

- 1 病虫害名      サツマイモ基腐病（もとぐされびょう）  
病原菌：*Diaporthe destruens* (Harter) Hirooka, Minosh. & Rossman
- 2 作物名          サツマイモ
- 3 特殊報の内容      新発生

## 4 発生経過

- (1) 発生確認月日： 令和5年7月19日
- (2) 発生地域： 県東部
- (3) 発生状況：

令和5年7月中旬頃、県東部のサツマイモ栽培ほ場で、萎凋し、株元が黒変した株の発生が確認されたとの報告があった（図1、2）。県農林総合技術センターによる病原菌の形態観察および遺伝子診断、農林水産省神戸植物防疫所における遺伝子解析の結果、本県未発生のサツマイモ基腐病と判明した。

本病は、平成30年に沖縄で初めて発生が確認され、その後、計32都道府県で報告されており、近隣県では、広島県、岡山県、鳥取県、愛媛県で確認されている。

## 5 本病の特徴

### (1) 病徴

本病が発病すると、葉が赤変、黄変し生育不良となる。茎は地際部から暗褐色～黒色に変色する。また、病変部に柄子殻（へいしかく）とも呼ばれる微小な黒粒（図3）を多数形成し、その内部に無数の胞子を形成する（図4）。

収穫時に健全に見えても、貯蔵中に腐敗することもある。

### (2) 発生生態

ア 本病原菌は、主に、感染した種イモや苗（つる）を植え付けることでは場に持ち込まれる。

イ 盛夏を除き、ほぼ年間を通して発生し、春から秋の多湿条件下で多発する。

ウ 発病株の病変部に形成された柄子殻からおびただしい数の胞子が漏出し、ほ場の湛水、降雨による跳ね上がりで周辺株に拡大する。

エ 本ほでは、茎葉が繁茂する生育旺盛期は、株の異常に気付きにくいいため、収穫期が近づいた秋頃になり枯れ上がったように見えることが多い。

オ 収穫後は、つるや塊根のり病残さ中で病原菌が越冬し、翌年の伝染源となる。

## 6 発生地域における今後の防除対策

- (1) 本病の未発生ほ場で生産された健全種苗を使用する。
- (2) 未消毒の苗を使用する場合は、本病に適用のある薬剤で苗を消毒する（表）。
- (3) 本病は、排水が悪いほ場で発生しやすいため、排水対策を徹底する。
- (4) 発病を認めた場合、発病株は速やかに抜き取り、適切に処分するとともに、周辺株への二次感染防止のため、薬剤を散布する（表）。

また、収穫後の残さは、ほ場から持ち出し、適切に処分する。

(5) 本病が発生したほ場で使用した資材及び機械類等は、十分に洗浄、消毒を行う。

(6) 本病が発生したほ場では、次作の植付前に土壌消毒を行う(表)。

(7) 本病が多発生したほ場では、サツマイモの連作を避け、ヒルガオ科植物以外の作物を栽培する。

(8) 対策等の詳細は、農研機構生研支援センター イノベーション創出強化研究推進事業(01020C)及び戦略的スマート農業技術等の開発・改良(SA2-102N)のマニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策(令和4年度版)」を参照する。

([https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html))



図1 ほ場での発生状況



図2 株元の病変部



図3 病変部の微小な黒粒(柄子殻)

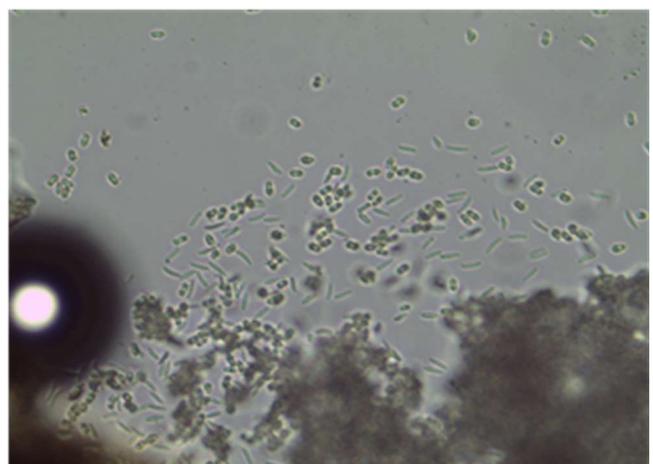


図4 柄子殻の内部から噴出した孢子

表 サツマイモ基腐病に登録のある農薬（令和5年9月7日現在）

区分	農薬名 (有効成分名)	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	使用回数	FRAC コード
栽培終了後～ 植付前  (土壌消毒)	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤 (ダズメット)	本剤の所定量を均一に 散布して土壌と混和す る	30kg/10a	植付21日前まで	いずれか1回	8F
	キルパー (カーバムナトリウム塩)	前作の作物残渣を含む 土壌表面に所定量の薬 液を散布し、ただちに 混和し、鎮圧又は被覆 する	原液として 60L/10a	前作の栽培終了 後から植付の15 日前まで	1回	8F
	フロンフロアブル25 (トリフロキシストロビン)	全面散布土壌混和	10倍、4L/10a 125倍、50L/10a 250倍、100L/10a	植付前	1回	11
	フロンサイド粉剤 (フルアジナム)	全面土壌混和	40kg/10a	植付前	(フルアジナム) いずれか1回	29
	フロンサイドSC (フルアジナム)	全面散布土壌混和	500ml/10a			
植付前  (苗浸漬)	ベンレートT水和剤20 (チウラム・ベノミル)	30分間苗浸漬	200倍	植付前	(ベノミル) いずれか1回	M3 1
	ベンレート水和剤 (ベノミル)		500～1000倍			1
	トリフミン水和剤 (トリフルミゾール)	17時間苗基部浸漬	500倍	植付前	1回	3
本ぼ  (散布)	Zボルドー (銅)	散布	500倍	—	—	M1
	ジーファイン水和剤 (炭酸水素ナトリウム・銅)	散布	1000倍	収穫前日まで	—	NC M1
	トリフミン水和剤 (トリフルミゾール)	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	2回以内	3
		無人航空機による散布	16倍			
	アミスター20フロアブル (アズキシストロビン)	散布	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	11
		無人航空機による散布	12～32倍			
フロンサイドSC (フルアジナム)	散布	1000倍	収穫30日前まで	2回以内	29	